

全国の学生アーティストが対象。第8回目のテーマは「Humaning-人間すること」

A-TOM ART AWARD 2025 公募開始



株式会社アトム（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：青井茂、以下当社）は、若手アーティストの育成を図るとともに、文化を通じた都市・地域活性を目指し、芸術を学ぶ全国の学生から作品を募集する A-TOM ART AWARD 2025 を開催いたします。

A-TOM ART AWARD 2025 について

第8回目となる今回は、テーマを「Humaning」とし、全国の現代美術の分野で活動する学生アーティストを対象にアート作品を公募します。作品データによる一次審査、プレゼンテーションによる最終審査にて5名の受賞者を決定し、2025年11月に受賞者によるグループ展を開催いたします。

本年は受賞者それぞれに賞金20万円を贈呈。さらに、東京・地方都市でのアートプログラム、展覧会などの副賞をご用意いたしました。本アワードを通して、若手アーティストが社会や人と繋がり、活躍の場が広がるきっかけとなることを願っております。

A-TOM ART AWARD 2025 特設サイト <https://a-tomartaward2023.cy-hiroo.jp/>

■スケジュール

2025年6月23日～8月24日	公募期間 / 一次選考：応募フォームよりフリースタイル ○9月19日 一次選考通過者結果発表
2025年9月25日	最終選考 / コートヤード HIROO にてプレゼンテーション※オンライン参加可 ○受賞者4名の発表
2025年11月7日～22日	公募展 / 受賞者の作品をコートヤード HIROO にて展示 ※日程が確定次第、改めてご連絡

■賞

	賞金 20 万円・受賞者グループ展 対象：全員 内容：受賞者4名のグループ展を開催。期間中、各賞の贈呈式を行います。 会場：コートヤード HIROO 展示期間：2025年11月7日(金)～22日(日) ※展示に係る運搬費用等の補助あり
	コートヤード HIROO 賞 対象：2名 内容：・賞金20万円 ・コートヤード HIROO での個展&レジデンス1ヶ月～1ヶ月半 ※実施スケジュールは相談の上決定いたします ※制作費、告知等の補助あり 詳細 URL： https://cy-hiroo.jp/
	LOCAL AWAKEN 賞 対象：2名 内容：・賞金20万円 ※2026年秋予定、1ヶ月～1ヶ月半予定 ※滞在費、制作費・交通費補助あり 詳細 URL： https://www.info-toyama.com/location_office/location/90541 ※会場の詳細ページです。お問合せ先ではございません。

※賞の内容に変更が入る場合がございます。予めご了承ください。

■審査員 (50音順)



麻生恵子 / 富山県美術館 主幹・普及課長 / 学芸員

富山県生まれ。1992年から富山県の美術館の学芸員として、国内外の近現代美術を中心とした展覧会、および教育普及活動の企画に携わる。2018年より富山県美術館の普及課長、2024年より現職。主な展覧会は、「とやま 版」(2000年、富山県民会館美術館ほか)、「瀧口修造 夢の漂流物」(2001年、富山県民会館美術館)、「I BELIEVE 日本の現代美術」(2009年、富山県立近代美術館)、「実験工房 戦後美術を切り拓く」(2013年、富山県立近代美術館)、「三沢厚彦 ANIMALS IN TOYAMA」(2018年、富山県美術館)、「大竹伸朗展」(2023年、富山県美術館)など。

伊東順二 / 美術評論家、プロジェクトプランナー



アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。1995年「ベニス・ビエンナーレ」日本館コミッショナー。1997年パリ日本文化会館柿落とし企画「デザインの世紀」展コミッショナー。2000～01年「文化庁メディア芸術祭」審議委員兼企画展プロデューサー。2002年ニューヨーク「The New Way of Tea」展キュレーター。2014年ピッティ宮殿近代美術館「Tourbillon」展等キュレーター。2004年～07年長崎県美術館館長。2005年～13年富山大学教授。2012年～2023年3月東京藝術大学特任教授。富山市ガラス美術館名誉館長。

<https://junjiito.com/>

Photo ©Lorenzo Barassi x 伊い TOMO

筧 康明 / インタラクティブ・メディア研究者 / アーティスト / 東京大学大学院情報学環教授



慶應義塾大学、MIT などでの活動を経て、2018年より東京大学大学院情報学環にて研究・制作・教育に従事。博士（学際情報学）。物理素材や現象とデジタル技術を掛け合わせ、モノや身体、空間を介した体験や周囲との関係を拡張するインタラクティブ・メディアを開発する。エンジニアリング/サイエンス / アート / デザインなど分野を越えて活動を展開し、SIGGRAPH、Ars Electronica Festival、YCAM、ICC、HOSOO Gallery、LVMH Métiers d'Art La Main などでの展示や、STARTS PRIZE 2022 Honorable Mention、第23回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞、ACM CHI2017 Best Paper Award、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞などを受賞。

<https://xlab.iii.u-tokyo.ac.jp/>

ジャコモザガネッリ / 作家 / キュレーター / 活動家



アーティスト、キュレーター、そして市民参加型プロジェクトの企画者として、幅広く活動している。人々を巻き込んだプロジェクトを数多く手がけており、「公共」や「社会」という概念を「空間」というテーマを通じて問い直し、挑戦している。この20年間で彼は、ヨーロッパやアジアを舞台に、さまざまな団体、財団、文化施設、公園、地域コミュニティ、行政機関などと協力しながら、多くのプロジェクトを立ち上げ、推進してきた。

主なプロジェクトには、コレクティブ :esibisco. (イタリア、2005–2015)、フィレンツェにおける巨大インスタレーション Non A Tutti Piace L'Erba (イタリア、2008)、空き物件の調査と再活用戦略に関する研究 La mappa dell'abbandono (イタリア、2010年より継続中)、台北当代美術館 (MOCA Taipei) での個展 Superficially (台湾、2017)、Grand Turismo (ウフィツィ美術館、フィレンツェ、イタリア、2018–2019) などがある。また、瀬戸内国際芸術祭 (日本、2019)、タイランド・ビエンナーレ (2021–2022)、森の芸術祭 晴れの国・岡山 (日本、2024) にも参加。

2022年から、灰谷歩、シルヴィア・ピアンティーニと共に、東京・墨田区で卓球台を設置することで公共空間の新しい使い方を提案することを目的とした、長期プロジェクト《Ping Pong Platz》をスタート。

<https://www.giacomozaganelli.com/>

丹原健翔 / 作家 / キュレーター



1992年東京生まれ。作家、キュレーター、アマトリウム株式会社代表。ハーバード大学美術史学科卒業。展覧会の企画・批評・制作・制度設計にわたり多角的に活動し、芸術の表現と言語、社会との回路を再設計する実践を行っている。現代美術、工芸、建築、企業文化事業、教育プログラムなど、分野横断的な企画を通じて、文化の制度と個人表現の間にある摩擦や翻訳不可能性をひとつの創造の契機として、新しい語りと経験の形式を提案する。主な企画に『凸版印刷 GEMINI Laboratory Exhibition:デバッグの情景』(2022、ANB Tokyo)、『無人のアーク』(2023、大阪関西国際芸術祭)、『Back to Thread 糸への回帰』(2023、FUJI TEXTILE WEEK)、『循環する宮殿』(2024、Mikke Gallery)、『竹中工務店 たてものがね まちめがね展 宇宙から虫まで、縮尺で考える建築の見方』(2025、VS.)など。その他に、東京工芸大学非常勤講師、アートスペース「ソノアイダ」レジデントキュレーターなど。

Photo ©野本ビキトル (METACRAFT) 提供 : e-vela.jp

■募集要項

<募集内容>

可能なものであればジャンル問わず可 (平面・立体・映像・インスタレーションなど形式は不問)

※一人もしくは1グループにつき1点まで

※未発表作品に限る (他所で受賞していない。商業出版されていない。新聞・雑誌に掲載されていない。)

コートヤード HIROO : 東京都港区西麻布 4-21-2 <https://cy-hiroo.jp/>

[コートヤード HIROO の詳細はこちら](#)

<公募条件>

以下の条件をすべて満たす方

1. 現代美術の分野で活動するアーティスト (ジャンル不問)
2. 学生であること (短大、専門大などは不問※国際学生証が発行できる教育機関に所属していること)
3. 最終選考に進んだ場合 9月25日に最終審査会・プレゼンテーション、及び11月7日(金)~22日(日)に展示が可能な方 (プレゼンテーションに限り来場が難しい場合はオンラインを検討)
4. 日本語でのプレゼンテーションができる方 (※日本居住者、国外居住者を問いません)

<参加方法>

特設サイトよりフォーム記入にて応募

※Google フォームを使用するため、Google アカウントを持っていない方はメールにて受付

下記事項記載必須のうえ、

【a-tomartaward@cy-hiroo.jp】まで

- ・ 氏名 (カナ)
- ・ アーティスト名
- ・ 所属学校 (専攻・学年)
- ・ メールアドレス
- ・ 電話番号
- ・ 本アワードをどこで知りましたか

- ・ 応募作品の形式（ 2D、3D、4D、インスタレーション、その他 ）
- ・ 応募作品タイトル
- ・ ポートフォリオ PDF（任意）
- ・ 添付物（ 静止画の場合は jpg または png で形式、動画の場合は mp4 形式 [可能であればコーデックを H.264 に指定] でそれぞれご提出下さい。静止画・動画とも 400MB 以内でご提出ください。ファイル便による送付の場合はダウンロード期限を最長に設定してください。）

A-TOM ART AWARD について

東京藝術大学 COI 拠点 伊東順二元特任教授と株式会社アトムが手を組み 2017 年に創設し、今年で第 6 回目の開催となります。若手アーティストの育成を図るとともに、文化を通じての都市・地域活性のきっかけづくりを目指します。

■企画

青井茂 / 株式会社アトム 代表取締役社長



1977 年東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。デロイト・トーマツ・コンサルティングにて特殊法人の民営化プロジェクトなどを担当。その後、産業再生機構にて企業の再生案件に従事。2019 年に株式会社アトム代表取締役社長に就任。同年、「地方覚醒」をビジョンに掲げたまちづくり会社、富山県・株式会社 TOYAMATO、長崎県・株式会社 IKASAGAN を立ち上げ、地方都市の活性化に尽力。2014 年に元厚生労働省の官舎をリノベーションした「コートヤード HIROO」をオープンした他、宿泊施設やレストラン「Sabasu」などを手がけるなど、次の時代に向けた不動産価値向上を模索しながら世界を回り続けている。

<https://shigeruaioicollection.jp/>

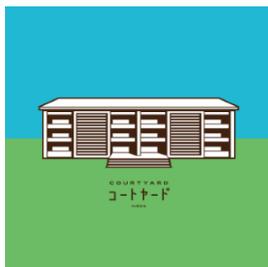


< 過去の受賞者 >

第 1 回 2017-2018	星野明日香、上田智之、村尾拓美、大友秀眞、中村光美、中條亜耶、菊池峻汰、白田貴斗、齋藤功美、李睿智、佐藤果林
第 2 回 2018-2019	俵圭亮、高橋健太、太田剛気、大野 キャンディス 真奈、山崎千尋
第 3 回	鈴木萌恵子、李一丹、山本和真、王之玉、沼田侑香、尾形楓、大山菜々子

2019-2020	
第4回 2021	菅野歩美、富井弥樹、草薙樹樹、福田周平、角谷紀章
第5回 2022	池田杏莉、Rui Yamaguchi、河合ひかる、萩原睦
第6回 2023	齋藤晃祥、上條信志、中澤瑞季、石井佑宇馬、尹苑
第7回 2024	湯川爽海、武田椿、水野渚、宮森みどり

<施設情報>



施設名：コートヤード HIROO

所在地：東京都港区西麻布 4-21-2

電話番号：03-6427-1185

H P : <https://cy-hiroo.jp/>

経済的な発展や人口増加のピークを越えたこれからの日本に必要なのは、新しい豊かさのモノサシです。私たちが目指したのは、欧米のコートヤード（中庭）文化を日本流にカスタマイズすること。その考えに最も適していたのは、古き良き建築物を周りの自然環境を含めて引き継ぎ、現代に合わせて再生するという方法でした。緑豊かなセミパブリックの空間で、くつろぐ人、仕事をする人、カラダを動かす人、暮らす人々がボーダレスに出会い、交流する。そんな新しい暮らしのあり方を、ここから発信していきます。

<会社情報>



会社名：株式会社アトム

所在地：東京都千代田区麹町 4-4-7 アトム麹町タワー

代表者：青井茂

設立：1959（昭和 34）年 1 月

電話番号：03-5210-8855

H P : <https://a-tom.jp/>

不動産ビジネス、投資ビジネスを軸に、アート、スポーツ、食の文脈から今ある資産を再定義し、「地方覚醒」を手掛けています。この時代に生きる一人ひとりの想いや情熱を敏感に受け止めながら、100年後も残る文化とは何かを想像し、世界を舞台に様々な分野でひとつひとつ足跡を残すために、これからも挑戦を続けていきます。

【本件に関するお問合せ】 A-TOM ART AWARD 運営事務局 / a-tomartaward@cy-hiroo.jp